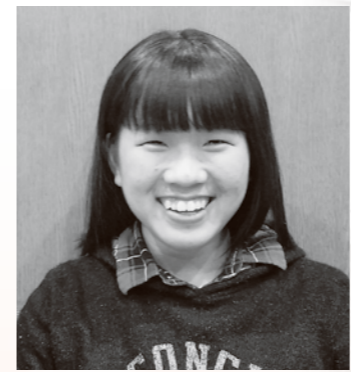


# 守っていききたい 郷土の祭り



練習に励む山本さん



山本 結鈴さん

あどけない笑顔が印象的な中学2年生。小さい頃からクラス対抗リレーに出るなど運動が得意だったといいます。乗馬経験はありませんが、持ち前のチャレンジ精神で本乗りの騎手に果敢に挑戦します。

## 山本さんにインタビュー

— 初めて馬に乗ったときの感想は？  
怖くはなかったけど、高いなあと感じました。それに楽しみだとも思いました。

— 練習の中でうれしかったことは？  
馬が初めて駆けたとき。怖さも感じたけど、リズムに乗れた感じがして達成感がありました。

— いろんなことが大変でしたか？  
雨の日に馬の機嫌が悪く、言うことをなかなか聞いてもらえず、難しさを感じました。

— 一番への意気込みをお願いします。  
体が小さい私にできるのかと思われるかもしれないけど、みんなを驚かせられるような走りを見せたいです。

### 家族からの応援メッセージ

初の女性騎手として注目されがちだけど、自分なりに頑張っ  
てやってもえたらいいと思います。家族全員で応援しています！

市内各地では長い歴史のある祭りが行われています。土田の白鬚神社大祭や久々利の八幡神社大祭がその一つです。これらは市の文化財に指定されており、可児の宝といえます。代々引き継がれるその伝統に、今年新たな風が吹きました。

問合先 文化財課

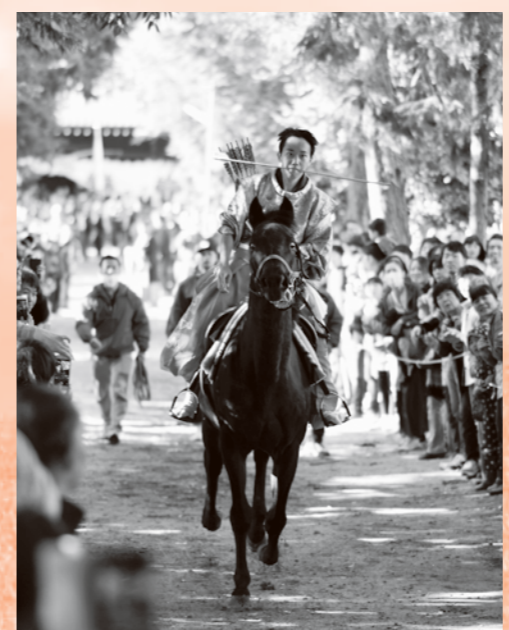
### 長きにわたる伝統

土田白鬚神社の大祭は、社殿が現在の位置に移った永禄年間（1570年代）頃から始まったという説もあり、流鎗馬が行われる祭りとして知られています。流鎗馬では、最初に「馬場見せ」が参道を駆け、次に矢を射る「本乗り」が登場します。かつて本乗りは名誉の役で、村の若者にとってはあこがれでした。

### かたちを変えながら守られる伝統

従来、流鎗馬の騎手は男性が務めてきました。騎手となる男性は祭礼当日までの一定期間は女性との接触を禁止され、身を清める期間に入ると、女性が調理したものを食べることも許されませんでした。女性禁制の祭礼だったため、女性が騎手になることは考えられないことでした。

若者が活躍する伝統ある大祭も、少子高齢化の影響を受けます。担い手となる若者が少なくなっているのです。しかし、時代とともに伝統もかたちを変えながら守られています。今年、初めての女性騎手が誕生します。



昨年の流鎗馬の様子

### いつまでも地元で愛される祭りへ

近年、少子高齢化や自治会員の減少というさまざまな問題があります。そうした課題に対応し、大祭を盛り上げるため、市民団体「与一の会」が設立されました。PR活動や会場周辺の整備など、地元住民の手によって伝統を維持し、盛り上げていく動きが広がっています。

### 今年の白鬚神社大祭

開催日 4月1日(日)

流鎗馬は午後3時頃から行います。今年は土田小学校を駐車場として用意しています。地元有志による飲食ブースもあります。

今回ご紹介した山本結鈴さん、同じく中学生の澤野大さん、小久保一誠さん、大学生の加藤潤起さんが騎手として登場します。人馬一体となって駆けて行く姿をぜひご覧ください。

### 他にもこんな春の大祭があります

#### 4/22(日) 久々利八幡神社大祭

江戸時代初期には始まっていたという記録の残る伝統ある祭り。大きな特徴として、2台の「ヤマ」と呼ばれる大きな山車が町内を回り、2種類のからくり人形の舞が披露されます。お姫様が鉄棒の大車輪の演舞を行う「蜘蛛舞」と、お殿様とお姫様、大蛇が登場する「佐夜姫」は、多くの観衆を魅了します。



#### 3/28(水) 子守神社大祭 (中恵土)

子守神社の創建は、一説によると保元年間(1150年代)頃とされます。和泉源内兵衛という武士が薬師如来のお告げを受け、可児の地へ移住し子安の神となつたとされ、可児を中心に広い信仰圏を持ちます。毎年、源内兵衛の命日に行われる大祭には、多くの露天商と参拝客が集まります。

